

## 索引の作り方

パッケージ `makeidx` を使います。そして、このパッケージを入れた後で、`\makeindex` と書きます。つまり、プリアンブルに

```
\usepackage{makeidx}
```

```
\makeindex
```

と書きます。そして、実際に索引を出す場所（文末）に

```
\printindex
```

と書きます。

索引を付ける語の後ろで `\index` コマンドを使って指定します。

漢字とカタカナの語の後なら、`\index{読み方@索引語}` の形、読みが不要なアルファベットやひらがななら、`\index{索引語}` の形で使います。

例文：

ピッツィカート `\index{ぴっついかーと@ピッツィカート}` すべき箇所の指定は、楽譜の上では `pizz\index{pizz}` と書かれ、またもとどおりに弓 `\index{ゆみ@弓}` でひく箇所に、イタリア語 `\index{いたりあご@イタリア語}` で `arco\index{arco}` (弓) と書くことになっています。アルファベットやひらがな `\index{ひらがな}` は、「読み方」を書く必要はありません。

これをタイプセットすると、ファイル名.idx というファイル（つまり拡張子が idx のファイル：索引の情報が、順不同で入る）ができます。

次に、ターミナルを立ち上げて、このファイルが入っているディレクトリに行き、

```
mindex ファイル名.idx
```

と入力すると、索引情報がアルファベット順、五十音順に並んだ「ファイル名.ind」というファイルができます。それがあれば、もう一度タイプセットすると、索引が出力されます。